



## Frequency and clinical relevance of anti-cyclic citrullinated peptide antibody in idiopathic interstitial pneumonias

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2022-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 勝又, 峰生 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/00004105">http://hdl.handle.net/10271/00004105</a>

## 論文審査の結果の要旨

特発性間質性肺炎（IIPs）は特発性肺線維症（IPF）や非特異性間質性肺炎などを含む原因不明の間質性肺疾患群（ILD）の総称であるが、その診断には関節リウマチ（RA）を含む膠原病などの二次性ILDの除外が必要である。抗環状シトルリン化ペプチド抗体（ACPA）はRAに特異的な自己抗体として知られており、興味深いことにIIPsの患者においてもACPA陽性例が存在し、その中にRAの診断に至らない症例も認められる。しかし、このような場合のACPAの臨床的意義は不明であるため、申請者は浜松医科大学倫理審査委員会で承認を受け、IIPsと診断された患者における血清ACPAの陽性の頻度、RAが続発する頻度およびその危険因子について調査した。

370例のIIPs患者のうち24例（6.5%）がACPA陽性であり、その24例中10例（41.7%）がRAを発症したのに対し、ACPA陰性群346例中でRAを続発したのは5例（1.4%）であった。さらにIIPs診断以降のRAの3年累積続発率もACPA陽性群は陰性群に比較して有意に高かった（28.9%対1.1%、 $P<0.01$ ）。またIPF患者、非IPF患者においても同様の検討が行われたが、IPF患者、非IPF患者ともにACPA陽性群は陰性群に比較してRA続発率が有意に高かった（57.1%対0.7%、 $P<0.01$ ；35.3%対1.9%、 $P<0.01$ ）。多変量Cox比例ハザード解析ではACPA陽性はIIPs患者全体におけるRA続発の独立した危険因子であり（ハザード比35.0、95%信頼区間11.8-117.8、 $P<0.01$ ）、またACPA陽性IIPs患者群において年齢が若いほどRA続発の独立した危険因子であることが示された（ハザード比0.93、95%信頼区間0.87-0.99、 $P=0.03$ ）。

審査委員会ではACPA陽性IIPs患者、特に若年の患者においてはRAを続発する可能性が高いという新たな臨床的な知見が得られたことを高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 杉本 健

副査 前川 真人

副査 小川 法良